

着用の機会がなくとも年に1度はタンスから取り出し、陰干し（虫干し）が必要です。

- ・現代家屋は昔の日本家屋と違い、機密性が高く湿気を帯びやすくなっています。
- ・湿気をそのままにしておくと身に覚えのないカビ、シミの原因となります。
- ・年に1度見る機会を作ることにより、カビやシミ、虫食いの早期発見等点検効果が得られます。

シミは大きく分けて3種類

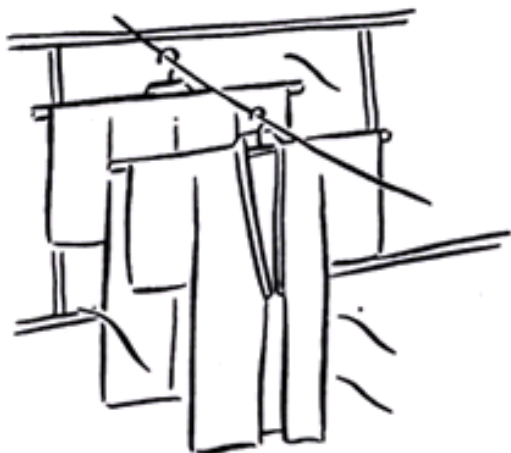
- ・水シミ → 水をこぼしたり、汗を解体した時にできる透明なシミです。一見わかりにくいですが、生洗い（丸洗い）で落ちることが殆どです。
- ・色の付いたシミ → しょうゆやソースなどの調味料類、お茶やコーヒー、ワインなどの飲料からついてるのが主な原因です。こちらはしみ抜きを別途しなければいけません。早期に対策すれば殆どの場合元通りになります。
- ・黄変 → 長い間放置され、黄ばんでしまったシミ。しみ抜きをしても完全には取りきれません。

カビ

- ・埃っぽい白いカビ → カビの付き始めは埃のような白っぽいものが付着します。慌てず払えば落ちますが、放置しておくと繊維の中に入り落ちなくなります。
- ・茶色っぽいカビ → 長い間放置され、繊維の中まで付着してしまったカビです。洗ってもほとんど落ちません。

◆虫干しの方法は

- 1.窓を開けて風通しの良い室内に、着物を1枚ずつ裏返してつるし、陰干しにします。その時にシミ、カビの点検を。



- 2.たとう紙は日にあててよく干します。
- 3.容器も乾拭きをして干します。

昔の人はこんな事を言っています。

(虫干しの時期)

7月下旬～8月下旬 (土用干し)

入道雲が湧き出したら、梅雨期に含んだ湿気を払いましょう。

10月下旬～11月上旬 (虫干し)

コオロギが“つづれ刺せ、つづれ刺せ” (縫い物をせよ) と鳴き出したら衣更え。冬物の点検をして、綻びを直しておきましょう。

1月下旬～2月下旬 (寒干し)

寒の頃、板戸も乾いて隙間ができる。(1年のうち最も湿度の低い頃) 宝物に風を通すにはもってこいの季節。

もし食べこぼし等でシミを付けてしまったら

- ・ティッシュやハンカチ等柔らかいものでそっとシミの部分を持ち上げて取り除きましょう。
- ・間違っても押して拭いたり、擦ったりはしないでください。
繊維の中まで浸透したり、生地を傷める原因となります。
- ・水で濡らすと、シミが広がり取れにくくなります。また絹ものは水に弱いので濡らさないでください。

以上、応急処置をしたらすぐにしみ抜きに出しましょう。早めに対処することで長くきれいに着用することができます。

※当店でも洗い、しみ抜きを承っておりますのでお気軽にご相談ください。

お問い合わせ：甲州屋呉服店 Tel 03-3341-3043 mail info@kousyuya.co.jp

(税別)

主な加工料金一覧	生洗 シミ抜き	生洗のみ	シミ抜き (1・2カ所程度の 通常のシミ)	シミ抜き (通常では 落とせないシミ)	とき洗張	お仕立代
振袖	8,800～	7,300				46,000
留袖						58,000～
訪問着						38,000～
付下						38,000～
無地						32,000～
小紋					13,000	28,000～
御召	7,000～	5,800				28,000～
紬			3,000	5,000～		28,000～
男物						32,000～
羽織						28,000～
コート						33,000～
長襦袢					7,000	22,000～
男物襦袢	5,000～	4,000			9,000	25,000～
振袖用長襦袢	6,000～	5,000			7,000	25,000～
袋帯	4,000～	3,000			6,000	本仕立13,000～
名古屋帯	4,000～	3,000			6,000	本仕立12,000～